

バハレーン・ティロス期のマカバ古墳群に葬られた人々 —マカバ第1号墳の調査 2024—

西藤 清秀	奈良県立橿原考古学研究所技術アドバイザー
岩越 陽平	奈良県立橿原考古学研究所主任研究員
辰巳 祐樹	奈良県立橿原考古学研究所主任研究員
大藪由美子	土井ヶ浜人類学ミュージアム学芸係長
板橋 悠	筑波大学准教授
篠田 謙一	国立科学博物館館長
米田 穰	東京大学教授
四角 隆二	岡山市立オリエント美術館 学芸員
阿部 善也	東京電機大学 助教
村串まどか	明治大学 助教

People Buried at Maqaba Burial Mounds in the Tylos Period: Excavation of Maqaba No.1 Burial Mound, 2024

SAITO, Kiyohide	Technical Advisor, Archaeological Institute of Kashihara, Nara Prefecture
IWAKOSHI, Yohei	Chief Researcher, Archaeological Institute of Kashihara, Nara Prefecture
TATSUMI, Yuki	Chief Researcher, Archaeological Institute of Kashihara, Nara Prefecture
OYABU, Yumiko	Subsection chief, Doigahama site Anthropological Museum
ITAHASHI, YU	Associate Professor, University of Tsukuba
SHINODA, Kenichi	Director, National Museum of Nature and Science
YONEDA, Minoru	Professor, University of Tokyo
SHIKAKU, Ryuji	Curator, Okayama Orient Museum
ABE, Yoshinari	Assistant Professor, Tokyo Denki University
MURAKUSHI, Madoka	Assistant Professor, Meiji University

1. はじめに

我々の研究目的は、バハレーン・ティロス期のマカバ古墳群の発掘調査を通して、当時のパルミラや諸地域の影響を確認することである。この時期、バハレーンは東地中海からインドへ向かう交易路の重要な中継地点の一つであり、諸地域から人々が訪れ、その一部はバハレーンで生涯を全うし、埋葬された可能性が考えられる。

マカバ古墳群は、バハレーン本島の北岸に位置し、少なくとも7基の古墳が認められる(図1)。マカバ第1号墳は、古墳群のやや南西に位置し、西側と南側を堤防状の墳丘に囲まれ、直径は約60メートル、高さ2.5メートルである。(図1)。

2. 2017-2019、2022-2023 年度調査の概要

2017年度から2023年度まで26基の漆喰棺墓と2基の土器棺墓を調査し、墳丘14基分の葺石(葺石と埋葬施設一致10基)を検出している(図2、図3)。その

中でF-0059、F-0071、F-0072は、「n」字状に墓縁部に周壁が巡る漆喰棺墓で、1号墳の中では傑出した規模と構造であり、盗掘は受けているものの、他の墓に比べて女性に関わる豊富な副葬品が納められていた。またF-0072は墓室上部縁沿いに鉄釘が一定間隔で打込まれ、布の痕跡が認められた。この痕跡は、遺体の墓室への納体後、蓋石横架前に墓室が布で覆われ釘で留められていたことを示している。施釉陶器碗の蓋石上や周辺への供献と同様にティロスの葬送儀礼上で重要な事例である。また、F-0076とF-0084の乳児埋葬の土器棺墓には成人女性と同様の装身具を伴った乳児と全く装身具を伴わない乳児が存在し、乳児の装身具の有無が、彼等の性別の指標になる可能性がある。F-0033、F-0063、F-0073では硬貨が口の中に入れており、地中海地域的埋葬習慣の影響が認められた(Salman and Andersen 2009、西藤他 2025、Saito et al. 2025)。

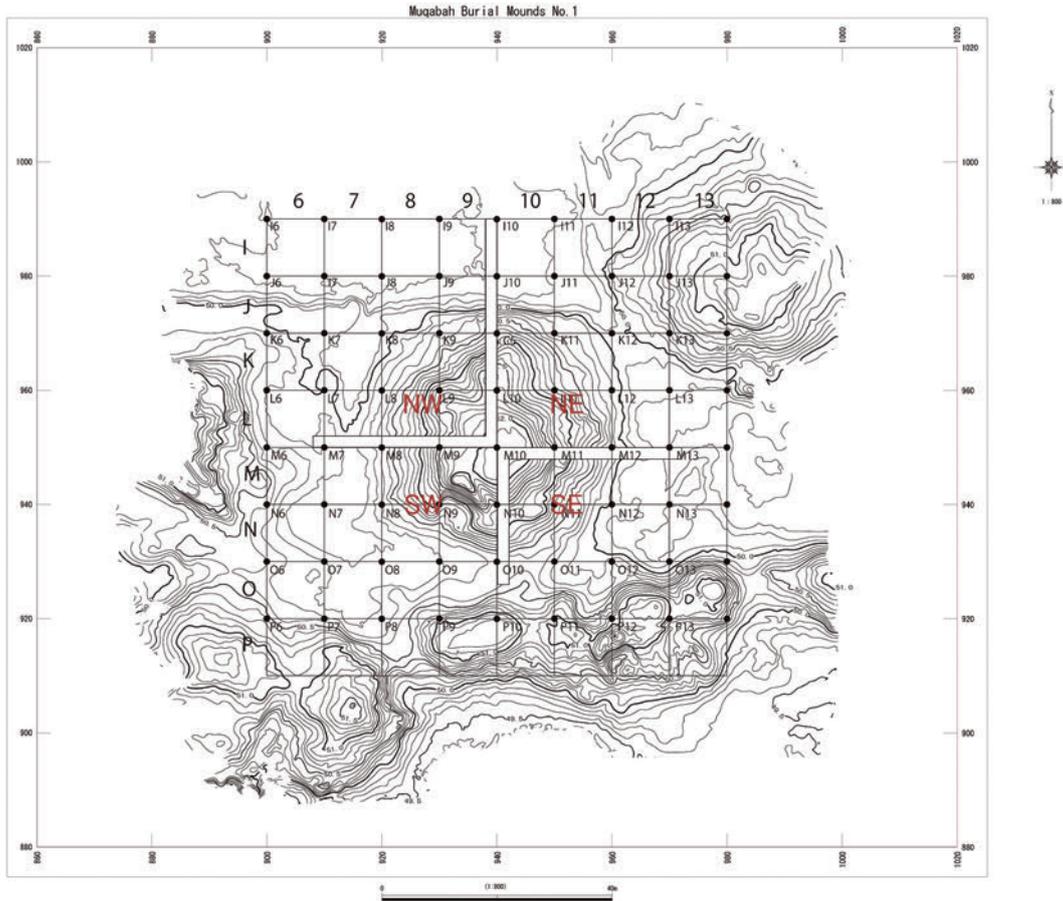


図1 マカバ第1号墳丘測量図(方眼上が北、方眼一辺10m)

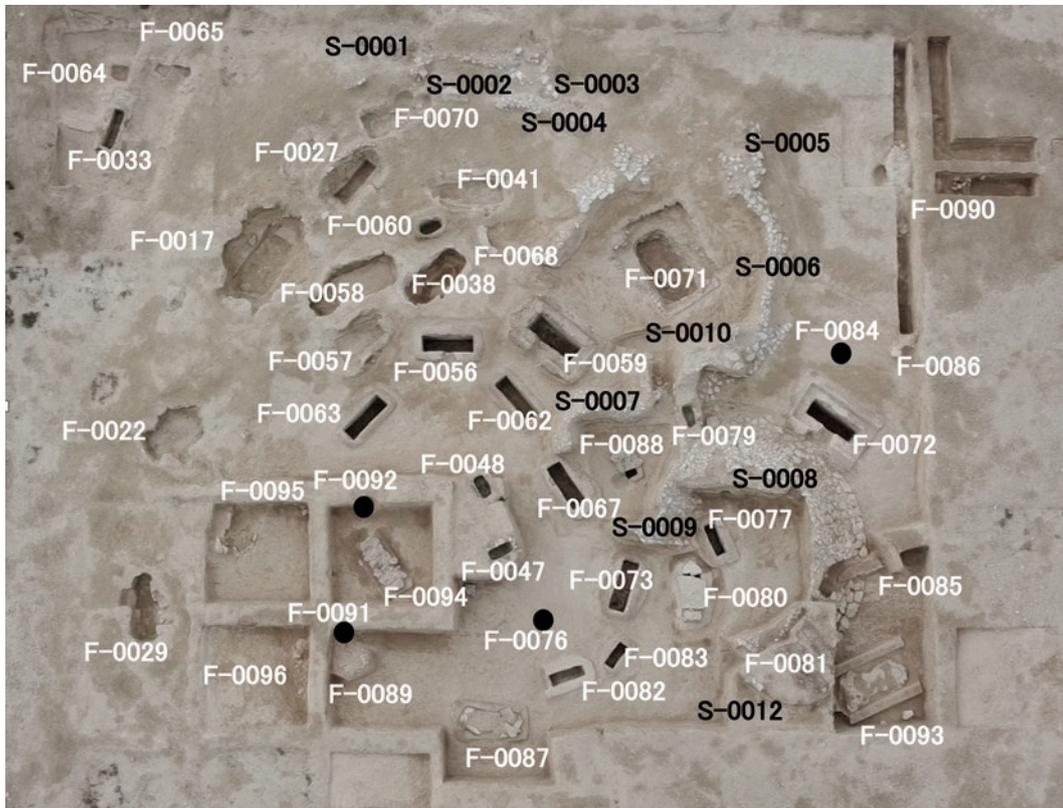


図2 マカバ1号墳内検出埋葬施設(F-00//)と墓石遺構(S-00//)

バハレーン・ティロス期のマカバ古墳群に葬られた人々―マカバ第1号墳の調査2024―

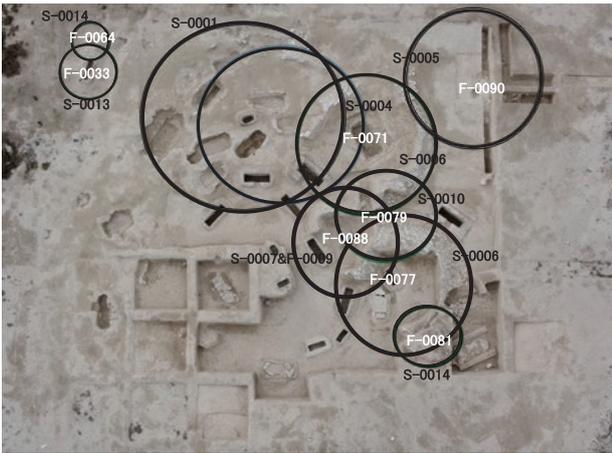


図3 マカバ1号墳内葺石墳復元墳丘



図4 2024年度発掘(白色)&検出埋葬施設(濁色)

3. 2024年度の調査

2024年度は7基の漆喰棺墓(F-0087、F-0088、F-0089、F-0090、F-0093、F-0094、F-0095)、2基の土器棺墓(F-0091、F-0092)を検出し、7基の漆喰棺墓(2023年度検出：F-0079、F-0080、F-0082、F-0083、F-0085、F-0086、2024年度検出：F-0089)と2基の土器棺墓(2024年度検出：F-0091、F-0092)を発掘した。なお、今年度は地中レーダー(GPR)を埋葬施設探査に導入し、F-0088とF-0090を検出した。以下調査した墓の中からF-0079、F-0080、F-0089、F-0090、F-0093、F-0094について記す(図4)。

A. F-0079

この墓は、S-0006とS-0008の間に堆積した土壌に設けられた南北軸の漆喰棺墓、3枚の蓋石で覆われ、西側壁から盗掘されていた。墓は外側全長120cm、幅66cm、内側全長95cm、幅45cm、深さ43cmである。棺南側底面付近から、乳児骨と真珠玉、貝製玉を含む玉類が検出された。

B. F-0080

この墓は、墳頂下約130cm下に位置し、南北軸の未盗掘漆喰棺墓である。墓室を覆う蓋石は3枚、全長241cmである。墓の北端には、蓋石に寄りかかった状態で、裏返された施釉陶器碗が存在し、碗内部には灰が充填されていた。墓室は全長202cm、幅77cm、深さ77cmであった。墓室内には頭位を南とする遺体が仰向けに埋葬されていた。遺体は40～60歳の男性で副葬品は伴わなかった。遺体の下には棒状の有機物で構成された簾状のマットが敷かれていた。これは遺体を墓室床面へ降ろす際に使用されたと考えられる。



図5 F-0079 漆喰棺墓全景(北より)



図6 出土玉類(右端上：真珠玉)



図7 F-0080 漆喰棺墓全景と施釉陶器碗出土状況(北より)

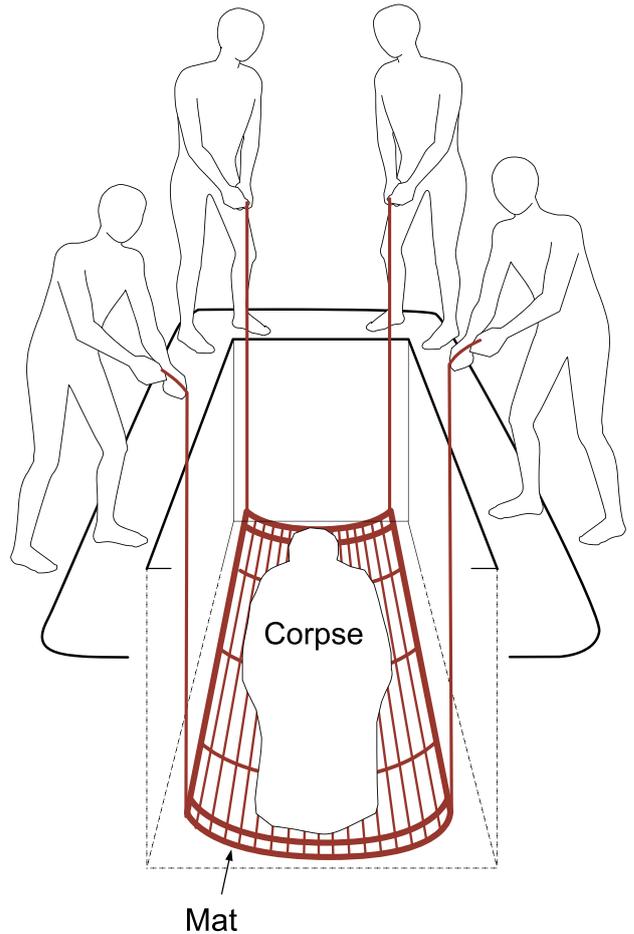


図9 墓室への納体想定復元図



図8 F-0080 人骨出土状況(北より)

E. F-0089

この墓はF-0080の東に位置し、地表から約20 cm下で検出した。この漆喰棺墓は墓室床面以外破壊されていたが、床面には幼児骨が遺存した。墓は東西を軸とし、全長84 cm、幅34 cm、深さ25 cmの空間が残存した。幼児骨は、頭位を東に向け、仰向けに伸展されていた。副葬品として、瀝青で固めた編物製の容器、ガラス器、ガラス玉の腕輪、布製の腕輪、ガラス玉首飾りなどが副葬されていた。遺体は、これらの装身具が身に付けられていた状態で埋葬されていた。

F. F-0090

この墓は、1号墳西南裾で地中探査レーダーにより発見された。地表下約40 cmで東西を軸とする全長260 cm、幅110 cmの大きな蓋石を検出した。蓋石縁部は漆喰で塗り込まれている。蓋石の東西両端には盗掘穴が存在し、西側の盗掘坑から鉄製短剣の破片が出土した。ティロス期の墓では鉄製武器の出土は確認されていない。それを裏付けるように次章のC14年代測定では、ティロス期より古い値が測定された。この墓の内部は2025年度に確認する。



図10 F-0089 幼児骨出土状況(西より)



図13 F-0093 漆喰棺墓全景&施釉陶器碗出土状況(北より)



図11 F-0090 全景(真上より)



図14 出土施釉陶器

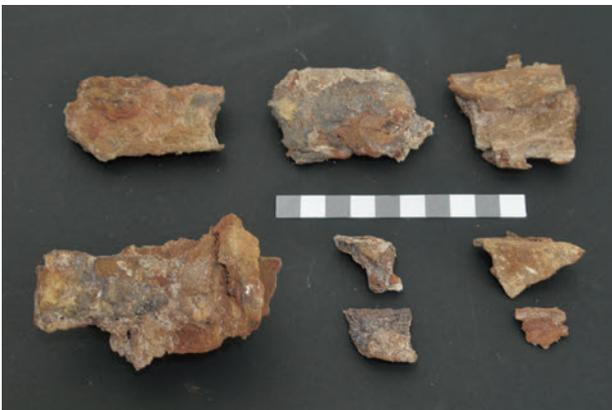


図12 出土鉄剣片

G. F-0093

この漆喰棺墓は、北西—南東を軸とし、F-0085の北側に位置する。この墓の特徴は、墓縁部を囲む「n」字形の周壁で、F-0059、F-0071、F-0072と同様の構造である。蓋石は3枚の板石で東側蓋石の中央に施釉陶器碗が逆さに置かれていた。碗の下には黄褐色の土壌が薄く敷かれていた。施釉陶器碗内部には灰が充填されていた。墓域外縁部は全長約394 cm、幅236 cm、墓の縁を囲む「n」字形の囲壁は幅41 cm、高さ19 cmである。この墓は2025年度発掘予定である。

H. F-0094

この漆喰棺墓はF-0089の南に位置する南東—北西を軸とする未盗掘墓である。施釉陶器碗が墳丘内、南側蓋石の約30 cm上方から逆さになった状態で出土した。施釉陶器碗内部には灰が充填されていた。墓室外部の全長268 cm、幅129 cm。蓋石の全長約238 cm、幅約114 cmである。この墓は、2025年度に発掘する予定である。

4. 漆喰棺墓の漆喰のC¹⁴年代測定

F-0080、F-0087、F-0090、F-0093、F-0094の5ヶ所から採取した漆喰内の炭からC¹⁴年代測定を実施し、F-0090、F-0093を除いてBC2世紀からAD1世紀中頃の年代を得た。今後問題となる鉄剣の出土したF-0090が「399 cal BC(68.3%)379 cal BC」でティロス期より古い時期が測定されたのは武器の存在を考える上で重要であり、2025年度の調査に期待が寄せられる。

5. 出土人骨のストロンチウム同位体分析

これまでマカバ古墳群出土人骨で歯エナメル質の酸素同位体分析を行い、マカバ古墳群に埋葬された成人



図 15 F-0094 漆喰棺墓全景 & 施釉陶器碗出土状況(南より)



図 16 出土施釉陶器

の多くはペルシャ湾岸地域の出身ではなく、遠方からの移入者であることが示唆された(Itahashi et al. 2024)。今回は歯エナメル質のストロンチウム同位体分析で在地と移入者の識別を行った。また在地の指標としてイヌ2個体の歯エナメル質を分析した。その結果、酸素同位体比が高くバハレーン在地の値を示していた1個体はストロンチウムでもイヌと同様の値を示し、バハレーン周辺の出身であることが示唆された。一方で、酸素同位体比がバハレーンの飲み水の範囲から外れる成人の多くはストロンチウム同位体比でもイヌとは異なる値を示し、移入者であることが示唆された。

6. おわりに

2025年のマカバ古墳群第1号墳の発掘調査では漆喰棺墓7基、土器墓2基を完掘し、漆喰棺墓6基を部分的に発掘し3点の重要な事項が明らかになった。

1点目は乳児埋葬に関して生後9±3ヶ月以上は漆喰棺墓、生後6±3ヶ月以下は土器棺墓であった。これらの乳児墓から興味深い事実が明らかになった。生後9±3ヶ月の乳児は土器棺墓に埋葬されていた可能

性が高い。2点目は、漆喰棺墓への納体に関して、棒状の篩状のマットに遺体を寝かせ墓室床面へ降ろしたと考えられる。3点目は、逆さまで灰を収めた施釉陶器碗を供献する場所は、蓋石上(F-0093)、墓縁部(F-0080)、蓋石上方の墳丘内(F-0094)の少なくとも3通りが確認された。しかし、なぜ逆さに置かれたのかは不明である。

理化学分析では、C¹⁴年代測定の結果、漆喰棺墓の時期が紀元前2世紀から紀元後1世紀を示す一方、鉄剣が出土したF-0090が紀元前4世紀代とティロス期より古い時期の墓である可能性が示された。また人骨のストロンチウム同位体分析では今までの結果を強固にする結果を得た。しかしDNA分析は、F-0082の子供の側頭骨で実施したが、結果は得られなかった。ガラスの分析では赤色ガラスビーズ玉が南アジアもしくは東南アジアで製作されたという結果を得た。2025年度もさらなる成果を求めて調査を実施する予定である。

奈良・バハレーン考古学調査団は、マカバ古墳群での発掘調査(2025年1月8日から2月20日)にはDr. Khalifa Ahmed Al-Khalifa、Dr. Salman Almahari、Dr. Melanie Muenzner、Mr. Morgan Linder、Mr. Ali Hassan、Mr. Salman Macroqueに多大な協力を得た。

本研究は、科学研究費補助金基盤研究(A)(22H0030):「バハレーン・ティロス文化の古墳に葬られた集団の特性と構成に関する総合的研究」(2022-2026)による。

■参考文献

- ・ Itahashi, Y., K. Okazaki, K. Yoshimura, Y. Oyabu, K. Saito. 2025 Immigration patterns inferred from oxygen isotope analysis of human teeth from the Tylos-period Maqaba burial mounds in Bahrain, *Frontiers in Environment Archaeology* 2025, 1-11.
- ・ Saito K., Y. Iwakoshi, Y. Oyabu, Y. Itahashi. 2025 Excavation of Maqaba burial mounds No. 1 in the Tylos period, Bahrain 2017-2025, *The IASA Bulletin Issue #34 Autumn*, 19-20. The International Association for the Study of Arabia.
- ・ Salman, M. I. and Andersen, S. F. 2009 *The Tylos Period Burial in Bahrain Vol.2 -The Hamad Town DS3 and Shakhoura Cemeteries*, Culture and National Heritage Kingdom of Baharain.
- ・ 西藤清秀、岩越陽平、平井史史、鈴木朋美、黒澤ひかり、富田樹、大藪由美子、板橋悠、篠田謙一、米田穰 2025「バハレーン・ティロス期のマカバ古墳群に葬られた人々マカバ第1号墳の調査2024」『第32回西アジア発掘調査報告会報告集』57-62頁 日本西アジア考古学会。